

令和4年6月2日（木）の5・6校時、4年生は社会科の校外学習で、沖村浄水場と乳房ダムを見学しました。

初めに、乳房ダムを見学しました。乳房ダムは昭和49年3月に竣工された、母島最大のダムです。ダムを下から見上げると、その高さに驚きます。階段を上っていくと、途中にダム工事で殉職された方々の慰霊碑がありました。子供たちとともに、そっと心の中で手を合わせました。このような方々のご尽力があったからこそ、毎日美味しい水が飲めるのだということを改めて実感しました。さらに階段を上がり、ダムの上に着きました。そこからは、沖港が見えました。海が見えるダムは、全国的にも珍しいそうです。また、ダム湖では水質浄化のため、湖面にいかだを浮かべてヨウサイ（空芯菜）を栽培していました。さらに、水中から泡が出ていました。これも、水を循環させ、水質を保つ役割があるそうです。

次に、沖村浄水場を見学しました。乳房ダムなどから送られた原水は、まず着水井に貯められ、沈殿池や濾過池を通り、MIEX 処理システム等の装置で徹底的に不純物を取り除いた後、塩素消毒をして、飲むことができる浄水になります。MIEX 処理システム（帯磁性イオン交換樹脂設備）は、日本では父島と母島にしかない設備で、何度でも再利用でき、科学物質が発生しないというメリットがあるそうです。さらに、帯磁性イオン交換樹脂の濃度によって、フロック（沈殿物）のでき方が異なるという実験を見学しました。最後に、ジャスミン茶の色も消えるという実験も見せていただきました。子供たちも皆、驚いていました。

母島の水道の蛇口からは、いつでも清潔な水が出ます。それは、水道担当の方々の弛まぬご努力のおかげです。世界では、水道水をそのまま飲める国は、ほんのわずかです。命の源である貴重な水を、大切にしようと改めて思いました。

